

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

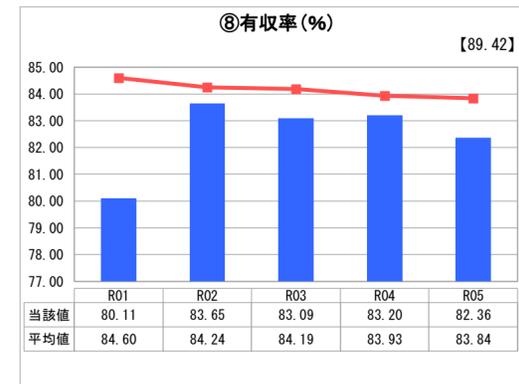
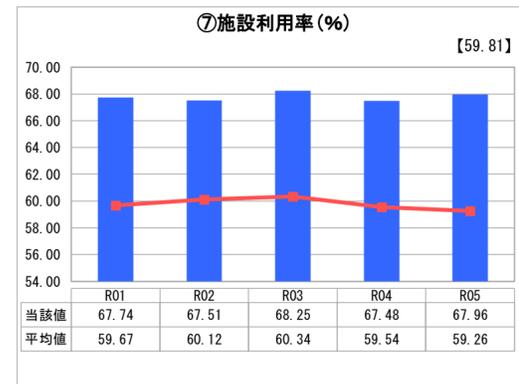
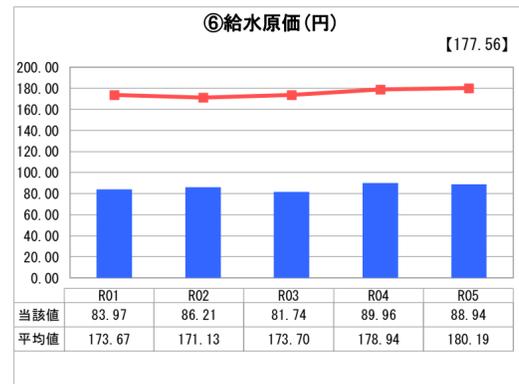
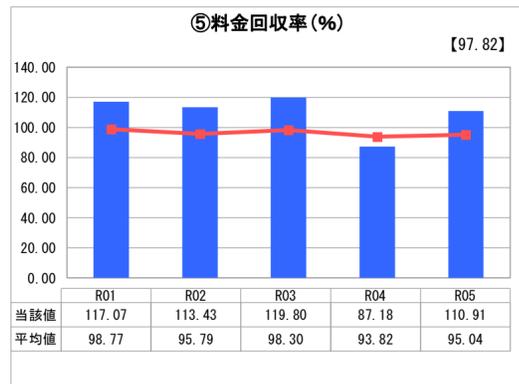
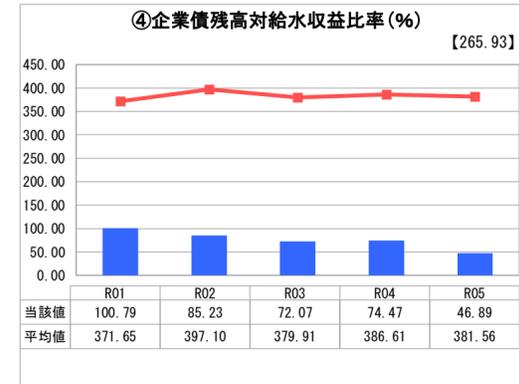
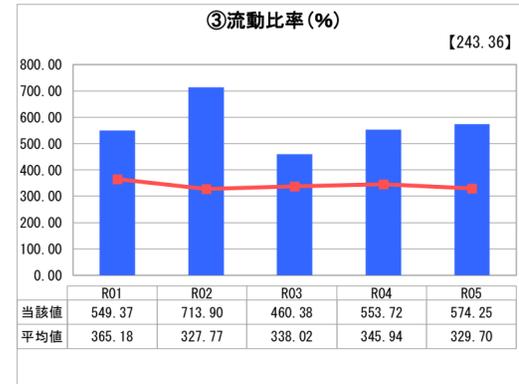
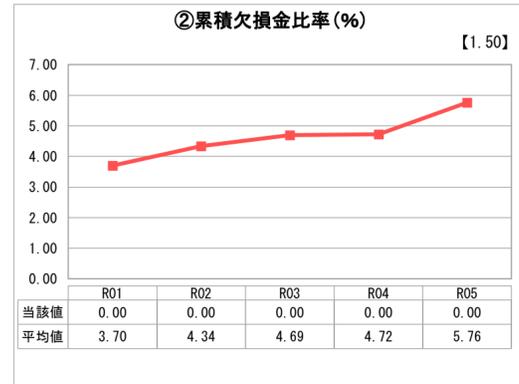
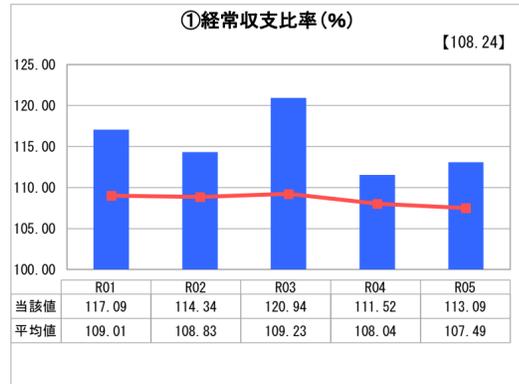
岐阜県 瑞穂市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	94.68	87.86	1,925	

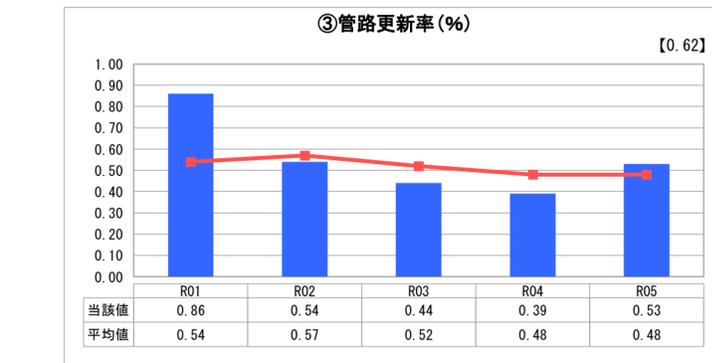
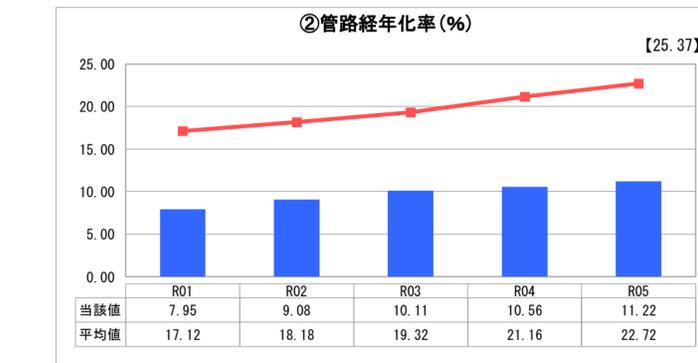
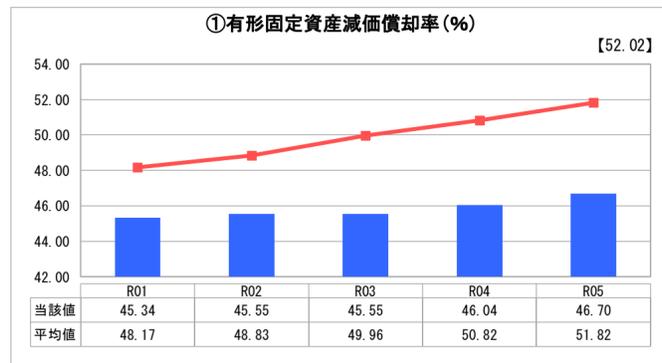
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
56,329	28.19	1,998.19
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
49,440	28.52	1,733.52

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、100%以上であり収支は黒字になっています。  
 「②累積欠損金比率」は0%であり損失のない健全経営が維持されています。  
 「③流動比率」は、全国平均を比較的大きく上回っており良好な状態ですが、建設改良費等に充てる企業債や未払金などの流動負債が増加すると流動比率は低下します。  
 「④企業債残高対給水収益比率」は、類似団体に比べ低い水準にありますが、水道施設の更新などによる企業債の増加が見込まれ、給水収益と企業債残高のバランスに留意する必要があります。  
 「⑤料金回収率」は、前年度は、コロナ禍における原油価格・物価高騰に伴う経済的負担の軽減対策として、6か月分の水道基本料金免除を実施した影響で供給単価が下がったため低下しましたが、今年度は実施しなかったため供給単価が上がったため上昇しました。  
 「⑥給水原価」は、井戸水による自己水であるため低く抑えられており、「⑦料金回収率」は、前年度は、コロナ禍における原油価格・物価高騰に伴う経済的負担の軽減対策として、6か月分の水道基本料金免除を実施した影響で供給単価が下がったため低下しましたが、今年度は実施しなかったため供給単価が上がったため上昇しました。  
 「⑧施設利用率」は、類似団体平均値比べ高くなっています。給水人口の増加に伴う1日平均配水量が増える傾向にあり、施設の稼働率は良好な状態と言えます。  
 「⑨有収率」は、類似団体に比べ低くなっています。漏水調査、老朽管の更新、修理などを継続的に実施し有収率の向上に努めます。

### 2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、全国、類似団体に比べ低くなっています。  
 「②管路経年化率」は、類似団体と比べて低い状態にあるものの、これは耐用年数(40年)に達している管路がまだ少ないため、今後耐用年数に達し更新時期を迎える管路が増加するため、計画的かつ効率的な更新に取り組む必要があります。  
 「③管路更新率」は、0.53と例年より若干高い水準です。「②管路経年化率」は増加しており、管路の老朽化が今後も進んでいくことから、計画的かつ効率的な更新を実施する必要があります。

## 全体総括

瑞穂市の水道事業は、経営の健全性及び効率性では良好な状態にありますが、今後見込まれる人口の減少、節水意識の向上などにより給水収益が減少することが想定される中で、老朽施設の更新需要に対応していくには、水道料金や施設規模の見直しなどの取り組みを更に進める必要があります。経営戦略や水道施設更新計画を活用し、長期的な視点に基づく経営の健全化に努めます。